市来町市来貝塚

【所　在　地】いちき串木野市川上
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】平成６年３月 16 日

貝層検出状況

市来貝塚は，南九州の縄文時代後期の代表的貝塚であり，当時の狩猟・漁撈や植物性食料の採集活動などの多様な生業形態を復元するに足る遺構・遺物が遺存している。大正 10（1921）年に発見されて以来，平成４（1992）年まで，たびたび調査が行われた。

本貝塚出土の土器を標式として，市来式土器が型式設定されている。この土器型式に象徴される市来式土器文化は，西北九州（長崎県付近）から南西諸島にまたがる広大な地域の中で，独自の海洋文化を展開しており，縄文時代後期のこの地域を特徴づけるものであり，本貝塚は土器型式の標式遺跡としてばかりでなく，その文化を代表する遺跡としても重要である。